

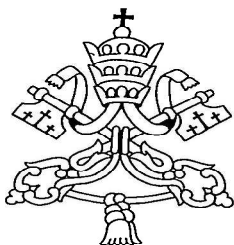
---

---

# The Apostolic Tradition

---

---



REPORT OF THE  
JOINT COMMISSION  
BETWEEN THE

**Roman Catholic Church  
and  
World Methodist Council**

1986-1991  
Fifth Series



ローマ・カトリック／メソジスト国際委員会  
「使徒伝承」に関する協議の報告書

## 序文

ローマ・カトリック教会と世界メソジスト協議会との間の神学対話は、現在 25 年間続いています。対話の初期には、教理、倫理、司牧といった幅広い問題が扱われました。ここ 15 年間は、他のエキュメニカル対話でも取り上げられてきた、相互に関連する一連の教理上の問題に焦点を当ててきました。1981 年には「聖霊」に関する報告書を、1986 年には「教会に関する声明に向けて」を発表しました。これらの文書に、今回「使徒伝承」に関する本文を加えます。この中で、これまでの研究を踏まえ、未解決の問題のいくつかに取り組みます。本報告書は、扱っている問題に関して、両者の間に存在する教理や実践の相違点のすべてを意図的に取り上げていないことを指摘しておくことが重要です。例え

ば、使徒継承の問題については、詳細な検討は行われていません。我々は、カトリックとメソジストが実際に信仰を教え、伝える方法の違いを調査するものではありません。また、カトリックとメソジストのどちらかに特有の教会論的な自己理解を評価するものでもありません。むしろ、我々の関心は、そのようなより具体的な問題を考察するための神学的視点を提示することです。我々はこれらの視点を、両教会の教義的立場と一致するものとして提示しますが、それらを完全に解説するものではありません。この報告書を注意深く読むことで、カトリックとメソジストが、自らの、そして互いの教義と実践を広い神学的・歴史的観点から捉え、それらの間の収束点を見極めることができるようになることを願っています。

このアプローチは、我々は既に、まだ不完全ではあるものの、ある種の交わりを共有しているという確信と一致しています。それは、我々が多くの共通点を認識し、分離の時代に互いに授けられた賜物を尊重するための、いわば通過点なのです。しかし、私たちはまた、「信仰、宣教、そして秘跡生活における完全な交わりという目標を含むビジョンに傾倒している」（『教会に関する声明に向けて』、21）。このビジョンを徐々に実現していくためには、私たちの現在の立場を支える神学的基盤を批判的かつ建設的に探求することが求められる。この報告書は、そのプロセスへの貢献となる。

この文書は、パリのノートルダム・デ・シャン通りにある「マリアの心を持つ娘たち」の家で行われた委員会の総会で完成された。委員会のメンバーは、そこでシスターたちから受けた歓待に感謝の意を表したい。

共同議長

ジェームズ・W・マローン司教

ローマ・カトリック教会

ジェフリー・ウェインライト博士

世界メソジスト協議会

1991年4月15日

## 使徒的伝承

「神は世を深く愛されたので、御子と聖霊を遣わし、私たちをご自身との交わりへと導かれました。御子と聖霊の使命によってもたらされた神のいのちへのこの共存は、キリストの弟子である教会の目に見えるコイノニア（交わり、共同体）において表現されました。」

（ローマ・カトリック教会と世界メソジスト評議会合同委員会報告書、1982-1986年、第4シリーズ）

## 序論

イエス・キリストは父なる神によって私たちの中に遣わされ、神の救いの目的、すなわちこれまで隠され、「今や聖霊によって啓示された」（コロサイ 1:26、エペソ 3:5）「キリストの奥義」を知らせ、完成させるために遣わされました。聖霊の力によって、この使命は教会の中で、そして教会を通して継続されます。キリストの家族は、御父の御心に共通して従い、共に集まります。

キリストのしもべとして、教会は世界にキリストの罪と死に対する勝利のメッセージを告げ知らせ、その勝利の生きたしるしを示し、すべての人に悔い改め、福音を信じ、約束された聖霊を受けるよう呼びかけます。

[2]

キリストの御心は、弟子たちが互いに平和に暮らすことです。キリストは、神の恵みという賜物を通して彼らを一つに結び合わせます。新約聖書の文書は、私たちに達成不可能な理想を提示するのではなく、キリストによって実現された現実の社会の現実の生活を描写しています。

この社会は、完全な遵守を重んじる閉鎖的な交わりではありません。その構成員は、神の意図するすべてをすでに達成しているわけではありませんが、全世界に開かれています。この社会は、キリストの恵みによって、どこにでもキリストの真の弟子を見出すことができることを認め、彼らがキリスト教徒としての弟子であることを確信する時、彼らをその交わりに迎え入れます。

[3]

このローマ・カトリックとメソジストの対話、そして信仰の一致を目指す運動全体は、キリストが教会のために定められた道筋を辿っています。キリストは、御自身が父なる神から受け、私たちに伝えてくださった使命（マタイによる福音書 28:18-20）に従って、教会のために定められた道筋を辿っています。これは、罪がキリスト教徒の間に築いてきた障壁を打ち破り、すべての信者を賛美の交わりへと導き、生涯の敵を永遠の友へと変える運動です。今日、カトリックとメソジストの信徒として、私たちは共に、迷信と世俗主義、無関心と不正義によって深く傷ついた世界に福音を伝えるという緊急の課題に直面しています。私たちは共に、私たちすべてに聖霊を送ってくださる唯一の主を仰ぎ見なければなりません。そうすれば、私たちは主の御名によって出かけて行って証しをすることができるのです。これを信頼性を持って行うには、福音に対する共通の理解と、お互いの生活と告白の中に信仰の真の証しを見出す能力が必要です。

[4]

これまでの対話の成果を踏まえ、委員会は、エキュメニカル運動全体を通してますます重要になっているテーマ、すなわち使徒的信仰の教え、伝達、そして受容として理解される「使徒伝承」を探求しました。このアプローチによって、司牧という難しい問題に新たな光を当てることができるかと期待されます。なぜなら、このテーマはこれまで、教会の教えというよりも、教会の運営と秘跡生活との関係において主に考察されてきたからです。

[5]

本報告書の総題である「使徒伝承」において、「伝承」という言葉は、あらゆる世代の絶え間ない刷新のために、キリストの福音を多様な手段によって生き生きと伝えることを意味します。キリスト教徒は、過去に定められた厳格な慣例を固定的に繰り返すことによって教会生活を律することはありません。むしろ、私たちの救いの出来事の大切な記憶を思い起こし、しっかりと保持することによって、私たちは神のもとに現代の必要に応えようと努める中で、現在の信仰に光と力を与えます。福音に含まれる変革の力を継続的に伝えることに、私たちが心から積極的に貢献できるのは、キリスト教徒としての希望があるからです。

[6]

神の民の過去の生活に関する知識、そして彼らの間で神が行われた御業を彼らが経験した証しによって、私たちは復活したキリストが今日私たちに語りかける御方を認識し、理解することができるようになります。私たちは、神が造られた民の中で、神の御言葉で自己を表現することを学びます。神は聖霊を私たちに遣わし、私たちの理解を広げ、神の国の拡大と完成という神の愛の目的に奉仕するために、私たちの言葉と行いを導いてくださいます。私たちは神の恵みによって、十字架上的なキリストの救いの死の恵みを信仰のうちに受け、キリストと共に自己を捨て、新しい命によみがえらされるとき、神の愛の目的に加わるのです（ローマ 6:3-4）。これはすべての信者の真の生活を構成する神秘であり、教会のすべての説教と教え、すべての実践、奉仕、儀式に意味と効果を与えます。

#### Participants in the Dialogue

##### **Roman Catholics**

Rt Revd James W. MALONE, Bishop of Youngstown, USA  
(Co-Chairman)

Rt Revd John BATHERSBY, Bishop of Cairns, Australia  
Sister Mary CHARLES MURRAY, University of Nottingham,  
England

Revd Professor Francis FROST, Ecumenical Institute, Cèligny,  
Switzerland

Rt Revd John ONAIYEKAN, Coadjutor Bishop of Abuja, Nigeria  
Canon Michael RICHARDS, London, England

Fr George H. TAVARD, Brighton, Massachusetts, USA

Very Rev Msgr Kevin McDONALD, Pontifical Council for Christian  
Unity, Vatican City (Secretary)

##### **Methodists**

Revd Professor Geoffrey WAINWRIGHT, Duke University,  
Durham, North Carolina, USA (Co-Chairman)

Revd David BUTLER, The Queen's College, Birmingham,  
England

Bishop William R. CANNON, Atlanta, Georgia, USA  
Revd Ireneu CUNHA, Oporto, Portugal (1988 meeting)  
Revd Dr Ira GALLAWAY, Pagosa Springs, Colorado, USA  
Mrs Gillian KINGSTON, Roscrea, Ireland  
Revd Dr Luis F. PALOMO, San Jose, Costa Rica  
Revd Professor Norman YOUNG, Queen's College,  
Melbourne, Australia  
Revd Dr Joe HALE, World Methodist Council, Lake  
Junaluska, North Carolina, USA (Secretary)  
Staff  
Mrs Linda GREENE, World Methodist Council  
Miss Josette KERSTERS, Vatican City